

<会員による自著紹介>

思考を鍛えるライティング教育 —書く・読む・対話する・探究する力を育む—

井下千以子 (編著)

桜美林大学

慶應義塾大学出版会 (2022 年発行)

定価 2,500 円 (税別)



本書は大学教育学会における3年間の課題研究の成果をまとめたものである。タイトルにある「思考を鍛えるライティング教育」の目標は、変革期を生きる人間形成の基本となる、教養ある「自律した書き手」の育成にある。本書では、4部構成で「書くこと」に必須の「考える」「読む」「対話する」力を育む数多くの授業・教材例を通して、大学での「アカデミック・ライティング」や、高校での「探究学習」に役立つ視点や実践を提供している。また意欲的な取り組みを行っているライティングセンターによる支援についても複数紹介している。中高から大学、そして社会人までの長いスパンで「書く力」を育むことに関心のある読者にぜひお読みいただきたい。

【目次】序章：思考を鍛えるライティング教育とは(井下千以子)、第1章：初年次必修文章表現科目の成果と課題(大島弥生)、第2章：書くために必要な読解力を鍛える(福博充・関田一彦)、第3章：論理的に書く力を育成する思考ツール(高橋薫)、第4章：リーディング学習と接続するライティング教育(杉谷祐美子)、第5章：フィンランドの読む習慣と考えて書く力(井下)、第6章：中等教育における探究学習はいかに大学での学習に接続したか(井下・柴原宜幸)、第7章：探究学習へと誘う大学でのライティング教育(井下・柴原・小山治)、第8章：レポート課題を分類する(成瀬尚志)、第9章：高校・大学・仕事におけるレポートライティング経験の職場における経験学習に対する連鎖構造(小山)、第10章：文章力向上を多面的に支える創価大学ライティングセンター(佐藤広子・高橋)、第11章：継続的な利用が自ら書く力を育てる青山学院大学ライティングセンター(小林至道・中竹真依子・嶋田大海)、第12章：正課と正課外の連環を目指した関西大学のライティングセンター(岩崎千晶)、第13章：指導と研究を行う早稲田大学ライティングセンター(佐渡島紗織)、第14章：「学術日本語」は分野を横断するか(小笠原正明)、第15章：21世紀型能力とライティング教育の未来(山地弘起)。